

札幌皮膚病理研究所 NEWS



2005年2月号

お知らせ

当研究所職員 塩見達志が2004年12月をもって退職し、1月より京都大学医学部附属病院病理部にて勤務いたすこととなりました。これまでの皆様のご厚誼には深く感謝申し上げます。

新たに論文が掲載されました

木村鉄宣、真鍋俊明
皮膚病理の読み方 ―芸術から科学へ―
日本皮膚科学会雑誌
114 (13) : 2060-2072

今後のスケジュール

2005,2,4

講演：第2回臨床皮膚病理研究会

場所：全日空ホテル（東京）

講演内容：～皮膚病理の常識と非常識～

1) Bowen's disease : Bowen病

2) Psoriasis vulgaris : 尋常性乾癬

2005,2,5

セミナー：皮膚病理指導医養成講座 6回目

場所：山王病院 山王ホール

2005,2,6

講演：日本皮膚科学会東京支部 教育講習会

場所：東京 新宿ヤクルトホール

2005,2,19-20

学会参加：第68回日本皮膚科学会東京支部学会

場所：東京 京王プラザホテル

～各種お申込・お問い合わせは当研究所まで～

札幌皮膚病理研究所
〒001-0018

札幌市北区北18条西3丁目2-21

TEL 011-756-4810 FAX 011-756-4842

E-mail office@sapporo-dermpath.com

Website www.sapporo-dermpath.com

今月の症例



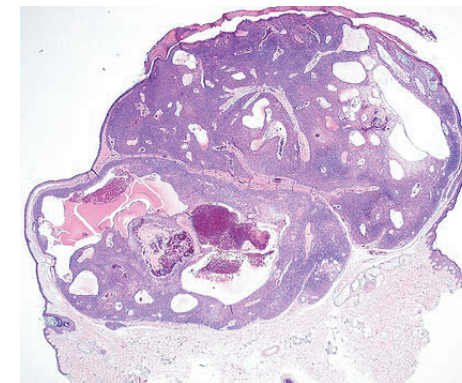
Hidradenoma

73才、女性

生検部位：耳前部、左

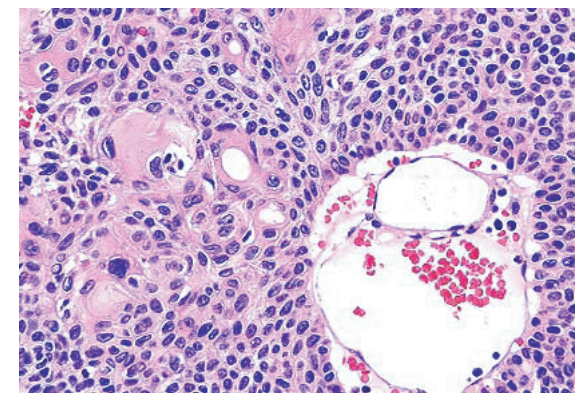
臨床診断：老人性疣贅（耳前部）

病理診断：Hidradenoma



真皮内に嚢胞と充実性の部分が混在する腫瘍性病変が形成されている。

この症例では表皮との連続性も見られる。



病変を構成する細胞は2種類で、

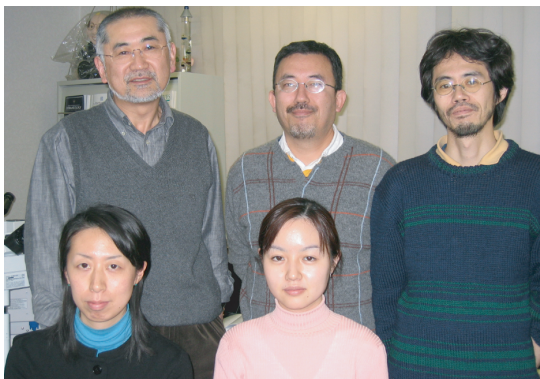
1) クロマチンの豊富で小類円形の核を有する poroid cell（写真右一下）、

2) 好酸性の細胞質を有し、管腔を形成する cuticular cell（写真左）。

また間質では血管形成も見られる。

今月の研修生をご紹介します

小宮 暢子先生（日本医科大学皮膚科）前列右
古賀 佳織先生（福岡大学医学部皮膚科）前列左



新スタッフのご紹介



有給研修医
福本 隆也
Takaya Fukumoto

生まれは京都です。1991年に奈良医大を卒業して、大学で約6年、市中病院で約7年勤めたあと、札幌へきました。

木村先生との出会いは、1998年の第6回札幌皮膚病理セミナーで、その時から皮膚病理の面白さにふれて、ときどき札幌に来ていたがもっと皮膚病理の勉強をしたくて7月からここで研修させていただいています。この6か月はたくさんの学会やセミナーに出て、そして他の研修医の先生たちとひたすら標本をみていたように思います。知識が増えていくのは楽しく、半年があっというまにたっしまいました。これまで、あまりみたことのなかった疾患の標本もたくさんみましたし、もちろんcommon diseaseの標本はそれ以上にたくさんみました。なんというか、顕微鏡をみていて、みない風景が減ってきて、みない風景が増えてきた感じです。とはいっても、まだまだ、勉強中の身で、わからないこと、鑑別をうまくつけられない疾患がたくさんあり、多くの課題がみえてきました。

今回、1月から有給研修医として、札幌皮膚病理研究所のスタッフの一員にならせていただくことになりました。標本の下見や写真撮影などもすこしお手伝いすることになりますが、できるだけ1枚の標本からたくさんの情報を拾って、臨床に役だつ報告書となるように頑張りたいと思います。どうぞよろしくお願いいたします。

皮膚病理コンサルテーションシステム

第三弾 ～当研究所のコンサルテーションシステムの特徴と課題～

- 1, 依頼件数は増加している
依頼件数は毎年増加している。コンサルテーションを主要業務にしている施設が出現したことで需要が顕在化してきているか、あるいは需要が喚起されている可能性がある。
- 2, 皮膚科医からの依頼が多い
皮膚科医からの依頼には2種類がある。一つは皮膚科医が自分で診断をつけられない症例の依頼である。皮膚科医の中には、民間の検査会社に標本の作製のみ依頼し、病理診断は自分で行っている方がいる。もう一つは、病理医の病理診断が臨床像と一致しないためセカンドオピニオンを求めている依頼である。
- 3, 患者や家族からの依頼がある
この場合も2種類がある。一つは、患者自らが、自らの疾患の病理診断が正確かどうかを確かめるために依頼してきた例である。患者が担当の臨床医に相談してから依頼した場合はともかく、患者が担当医と相談なしで独自に依頼してきた場合にどう対処するかは検討が必要である。もう一つは支払者が患者で依頼者が臨床医という例があるので、患者に依頼されて臨床医がコンサルテーションを求めたと考えられる例である。いずれも、診療情報の開示が進み、また臨床におけるセカンドオピニオン制度の普及とともに今後増加する可能性のある依頼方法である。
- 4, 病理医からの依頼もある
病理学会には現在コンサルテーション制度がある。当研究所の場合はコンサルテーションが業務の一つであるため、コンサルタントとして登録することを断った経緯がある。病理学会のコンサルタント制度は費用が3千円かかるが、これは学会の事務経費として使用されコンサルタントには報酬が支払われない仕組みである。病理医には、個人レベルで専門性の高い医師にコンサルテーションする、病理学会のコンサルテーション制度を利用する、そして当施設に依頼するという選択肢がある。私たちはコンサルテーションの需要が多い分野に専門性の高い医師を揃えることで病理医に信頼され選択される施設になることを目標にしている。

- 5, 担当医や患者が費用を支払っている
現在の健康保険制度には病理診断のコンサルテーション費用を請求できる仕組みがない。そのため、医療機関がコンサルテーション費用を負担しなければ担当医が自腹を切るかあるいは患者に費用を請求することになる。病理診断におけるコンサルテーション報酬の支払い方法をどうするかを検討する必要がある。

病理と臨床 Vol22 No11

「皮膚病理コンサルテーションシステム」より抜粋

2005年開催セミナーのご案内（予定）

皮膚病理講座 基礎編（開催地：東京）

専門医になるために必要な皮膚病理の知識や
専門医試験受験対策を含む

日時 2005年5月28日（土）・29日（日）
場所 東京 定員；100名
講師 木村 鉄宣（札幌皮膚病理研究所 所長）

皮膚病理講座 応用編（開催地：東京）

臨床をみて病理を考え、病理をみて臨床を考える
皮膚病理の常識・非常識

日時 2005年7月9日（土）・10日（日）
場所 東京 定員；100名
講師 木村 鉄宣（札幌皮膚病理研究所 所長）

皮膚病理診断ワークショップ（開催地：札幌）

皮膚付属器腫瘍の疑問・問題点を解決する

日時 2005年10月1日（土）
場所 北海道大学医学部 臨床講堂 定員；50名
講師 木村 鉄宣（札幌皮膚病理研究所 所長）

皮膚病理診断コンセンサスセミナー（開催地：札幌）

皮膚付属器腫瘍の疑問・問題点を解決する

日時 2005年10月2日（日）
場所 北海道大学医学部 臨床講堂 定員 50名
講師 木村 鉄宣（札幌皮膚病理研究所 所長）

皮膚病理指導医養成講座（開催地：札幌） 年2回

研修医を指導するために必要な皮膚病理学

- ・炎症性皮膚疾患
日時 2005年9月3日（土）・4日（日）
場所 北海道大学医学部 第4講堂
- ・炎症性皮膚疾患以外（詳細未定）
日時 2005年12月10日（土）・11日（日）
場所 北海道大学医学部 臨床講堂
講師 木村 鉄宣（札幌皮膚病理研究所 所長）

皮膚外科手術のための皮膚腫瘍病理学講座

手術切除されることの多い良性と悪性の皮膚腫瘍の病理組織所見を中心に解説し、手術方法や切除範囲を考えるための情報を提供します

東京会場 日時 2005年6月18日（土）会場 東京
大阪会場 日時 未定 会場 大阪
定員 各会場 100名ずつ
講師 木村 鉄宣（札幌皮膚病理研究所 所長）

第13回札幌皮膚病理セミナー 世界の皮膚病理学と皮膚病理医（開催地：札幌）

日時 2005年 秋（予定）
場所 札幌 定員 100名

詳細はホームページにてご案内しております。
日程が変更になる場合もございますので、
お申し込みの際には、再度ご確認ください。